

Active School Kai Project 令和6年度プロジェクト報告書

学校番号	13	学校名	白根高校		
全・定・通	全	学年	1	在籍生徒数	123 名
教育目標 (学力に関するもの)		学び「高め」「拓く」「学び」とは「故きを温ね新しきを知る」「高め」とは「自己を高める」「拓く」とは「社会の中で生きてゆく道を拓く」 ◇主体的・対話的で深い学びによる学力向上の推進 ◇規範と相談による生徒指導体制の確立 ◇幸福追求を目的とするキャリア教育の推進 ◇体育・文化活動による健康・安全教育の充実 スクール スローガン“HAPPY”、“Healthy”体も心も健康で、人間関係も健全であることを目指す。“Active”体も頭も元気で活発であることを目指す。“Positive”前向きで、積極的であることを目指す。“Powerful”たくましく、協働できることを目指す。“Be Yourself”自分らしさを活かした人生を送ることを目指す。			
育てたい生徒像 身に付けさせたい資質・能力		1 将来、地域社会で貢献するための基礎となる学力と人間力を鍛える。 2 自ら学び、自ら考え判断し、適切な行動ができる力を育成する。 3 自らの進路実現に向け、主体的に取り組む力を育成する。 4 自ら課題を見いだし、他者と協働して課題を解決する力を育成する。 5 地域社会と連携を図り、体験活動を通して社会の一員として生き抜く力を育成する。			

各教科の取組

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
国語	将来、地域社会で貢献するための基礎となる国語についての知識や情報の扱い方を身に付け、適切に使うことができるようにする。	4.3	4.3	生徒の学力的な問題もあり、今の単位数では指導内容が必要最低限の事項に絞られてしまう。身に付けたり、理解を深めたりするためには活用する時間が必要だが、その時間を確保する必要がある。
	自ら考えて課題を見出し、他者と協働して解決する力を伸ばすため、言葉を用いて自分の考えを論理的にまとめ、それを他者に伝える思考力や表現力、他者の考えを理解し共感できる、想像力を育む。	4.5	4.3	課題を設定する力や、自力で問題を解決する力が乏しいため、グループ活動の深まりがない。継続的に活動に取り組み、生徒の想像力が発揮できるテーマ設定が必要である。
	様々な人との交流の中で、適切な言葉づかいや言葉の味わいなどの感覚を高め、また読書を通して言語文化に親しむなどして、自身の国語力を向上させようとする態度を養う。	4.5	4.3	同学年や家族等交流の範囲に限られていたため、語彙力が圧倒的に少なく、社会性も乏しいため、できるだけ周囲の世界を広げる活動が求められる。また、読書をしない生徒が多く活字に触れる機会が少ないため、自主的に読書をさせる工夫が必要である。
地公	社会的事象の歴史的な見方・考え方を身につけるために、日本や世界の近現代の歴史に対する理解を深めるための知識を習得させる。	4.5	4.3	次年度に向けてさらなる生徒の学力向上につながるよう、ICTの活用などさまざまな工夫を模索していく。
	さまざまな資料・史料を活用して、歴史の変化や事象の意味などを多角的・多面的に考察する力を高め、発表やグループ活動で表現する力を育てる。	4.2	4.1	着実に学習意欲が向上するよう、授業内容などを工夫し、わかりやすい学習を心がけていく。
	近現代の歴史の変化を通して、主体的に社会の課題を解決しようとする力を育て、日本だけでなく世界の歴史・文化などを理解し、他者を尊重する態度を育む。	4.4	4.2	国内外の近現代史に興味関心が湧くような内容を授業で取り上げていくことなど、知識を習得する意味を考えさせることができる機会も設けていきたい。
数学	数学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身に付いている。	4.3	4.2	ICT機器を活用して、グラフや図形などイメージを持たせて問題に取り組むことを心掛ける。また、それを用いて説明の時間を短縮するなど、演習の時間をできるだけ多く取り、基本を重視した表現・処理能力を高めていきたい。
	事象を論理的に考察し表現する力、事象の解決の過程や結果を批判的に考察し判断する力をPCでの発表やグループ活動等他者との協働できる。	4.2	4.1	今年度は、ICTを活用した授業や積極的にグループ学習等ができた。次年度は教え合いやBYOD活用を中心としたグループ学習をさらに積極的に行うことで課題解決を図りたい。
	数学のよさを認識し、活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、評価・改善したりしようとする態度や創造性が身に付いている。	4.3	4.2	授業において、日常生活の中での数学の有用性を具体例を用いて説明し、数学に興味関心を持たせるなど、数学的な思考を生かせるような指導をする。
理科	科学と人間生活との関連性を理解する為に、日常生活に根ざした身近な物質や現象を具体的に理解できる力を養う。	4.5	4.3	科学と人間生活の関連性とどのような活用がなされているのか、地域や社会で利用されている自然科学の実情を知る活動が必要である。また、その活動について生徒に発表させ表現力を高めたい。
	観察や実験を通して、身近な物質や事象に興味を持ち、観察、実験結果から考察する探究心と思考力を身につける。	4.3	4.3	実験や観察に興味関心を持つことができるが、その後、自らその実験や観察したことを深く調べるような働きかけをすることが必要である。調べた結果をレポートにまとめさせ論理的に考える力を高める指導をする。
	科学技術の発展がもたらしたプラス側の面ばかりではなく、マイナスの側面にも着目し、互いの意見を交換する中で他者と協働する態度を養う。	4.4	4.2	科学技術の発展と自然環境、環境問題などから生徒同士が意見を交換する授業の回数を増やしていくことが必要である。また、課題を見つけそれを課題解決するにはどうしたらよいのか考える力を高めたい。
英語	英語によるコミュニケーションにおいて、相手の意見を理解したり、自己発信したりするための基礎となる知識及び技能を習得している。	4.3	4.1	スピーキング活動やライティング活動で表現活動を行うことができたが、基礎となる語彙や表現が不十分であり、基礎力をつけるしていくことが重要である。
	情報や考えを的確に理解したり適切に伝えたりすることができる。また、状況に応じて臨機応変にコミュニケーションを図ることができる。	4.1	3.9	適切に伝えたり、状況に応じてコミュニケーションを行うには基礎的な力をつけていく必要がある。多量の英文を読ませ、聞かせることも必要である。
	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が身につけている。	4.2	4.1	ALTとの交流を楽しみ、異文化に興味を持ち理解しコミュニケーションを取ろうとする態度が見られた。
芸術	共通事項(造形要素とその働き等)の学習を通し、意図に基づいて表現するための技能を身に付けることができる。	4.5	4.4	造形要素について継続的に指導し、生徒が自分の作品について客観的に分析できることを今後も目標とした。
	創造活動、対話による鑑賞活動、作品のプレゼン(演奏)を通し、芸術的な見方、感じ方を深めることができる。	4.6	4.3	他者の作品に興味を持ちお互いの作品を鑑賞する姿が見られた。制作途中においても対話する時間を設け、完成度の高い作品づくりを今後は目指したい。
	作品制作、演奏活動に主体的に取り組んでいる。また芸術文化に対し興味関心を持っている。	4.4	4.3	多くの生徒が意欲的に取り組んでいた。教材を工夫し、適切なアドバイスをを行い生徒の興味関心を喚起したい。
家庭	生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費生活などの基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けている。	4.5	4.4	学習内容の定着や技能の向上のため、さらに実習を充実させた学習計画を立てていきたい。授業への取り組みは良好であるため、自分なりの目標を設定させて主体的に取り組む態度を育成したい。
	家庭や地域、社会に関する課題を見出し、その解決に向けて実践・評価・改善を続ける中で、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	4.4	4.3	家庭や社会に関する課題の把握、解決策の構想の為に、ICTの効果的な活用をさらに進めていきたい。また、課題解決能力を高める授業の研究を行ってきたい。
	学んだ内容を活かして他者と協働し、自分や家族、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。	4.4	4.3	学んだ内容を、自分の身近な生活課題の改善に活かす態度を育むために、ホームプロジェクト学習を計画的に進めさせたい。
保体	健康の保持増進の仕方、体力の高め方などの基本的な知識を理解し、実践することができるように技能を身に付ける。	4.4	4.3	健康の保持増進の仕方や体力の高め方など基本的な知識を身につけることはできたが、それを生徒自身の生活の中で活用できるようにしていく必要がある。
	健康や運動について自他の課題を見つけ、他者と協働して課題の解決に向け思考し判断するとともに他者に伝える力を身に付ける。	4.5	4.3	グループワークやペアワークなど仲間と協働する活動を今年度以上に取り入れ、意見交換する場などを増やしていきたい。
	主体的に運動に取り組み、何事にも粘り強く取り組む力を身に付ける。	4.5	4.3	身体を動かすことが好きでない生徒も、主体的に運動に取り組めるように活動内容や指導方法を工夫していきたい。

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
情報	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人とのかかわりについて理解している。	4.4	4.1	コンピュータの仕組みやデジタル化の原理に関心を持たない生徒が多い。そのため、身近な話題を取り入れ、興味を引く工夫が必要である。
	事象を情報とその結びつきの視点からとらえ、問題の発見、解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	4.4	4.1	データから問題点を発見するための知識が不足しているため、深く考えることが難しい。十分な知識を身につけるためのインプットの時間も必要である。
	情報社会とのかかわりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。	4.4	4.1	著作権などの身近な話題には関心を持ち、主体的に取り組む姿勢が見られた。理数的な分野についても、生徒が興味を持てるような課題を工夫する必要がある。
総探	自らのキャリア形成に必要な知識とそれに関わる情報を収集することができる。また、他者の意見を的確に解釈することができる。	4.4	4.3	各種講演会や体験学習の事前・事後学習を充実させ、話し合いや協働的な学びを通じて自身の考えを形成する時間を確保する。
	課題の発見や課題解決への道筋を立てることに主体的に取り組むなかで、自己発信したり協働したりしようとする姿勢が身につけている。	4.4	4.3	進路行事の個別最適化を図り、各自が主体的に取り組む場面を確保するとともに、協働する機会をさらに充実させる。
	自身の興味・関心をもとに、学びと自らの将来を結び付け、地域や社会との関わり方について積極的に考えようとする姿勢が身につけている。	4.5	4.3	キャリアパスポートを活用し、自己に関わる情報やキャリア形成過程を整理し、学びを振り返り見通しを立て、社会との関わり方について考える時間を増やす。

「授業アンケート」高評価数値の推移(%:小数点第1位まで) 全学年共通			R6中間	R6度末
先生の声の大きさは適切である。 ①強くそう思う, ②そう思う			98.0%	67.0%
ノート(プリント)等で授業の記録をしっかり行っている ①強くそう思う, ②そう思う			96.6%	95.5%
指示された活動(PCの活用、グループ活動、実技など)に積極的に参加している ①強くそう思う, ②そう思う			96.0%	93.8%
先生の話す早さは適切である ①強くそう思う, ②そう思う			95.5%	95.2%
課題や提出物を期限内までにに出している ①強くそう思う, ②そう思う			95.5%	95.5%
先生の評価は公正だと思う ①強くそう思う, ②そう思う			94.4%	90.7%
先生は学習を促す適切な言葉かけを行っている ①強くそう思う, ②そう思う			92.5%	92.3%
授業を通して、知識や技能を身につけ、自分の考えを深めることができている ①強くそう思う, ②そう思う			86.8%	88.4%

保護者アンケート結果(学力に係わるもの)

「学校の授業が楽しくわかりやすい」について、否定的な回答が約2割(25人程度)、「学習内容をほぼ理解している」について、否定的な回答は約3割(38人程度)は、われわれ教員側が、再考する課題であると思う。他については、9割を超えているものの、否定的な回答をしている1割の生徒(10人程度)の声に耳を傾けて、必要な対応・支援を行うことも大切だと思う。

授業アンケート等を踏まえた総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む)

「声の大きさが適切ではない」の回答が3割である。大きすぎか小さすぎかわからないが、「伝える側」にも問題があると感じている。「評価の公正性」に疑問を抱いている生徒が1割いることも、学校側は見逃してはいけない問題としてとらえる必要があると思う。他の調査では、家庭学習時間が少ないという結果もあり、学習習慣が身につけていない生徒が多い。保護者の意見からは、学力向上を求める声もあるが、学習の実態が伴っていないため、このギャップをどう埋めるか、という点も必要である。

Active School Kai Project 令和6年度プロジェクト報告書

学校番号	13	学校名	白根高校		
全・定・通	全	学年	2	在籍生徒数	127 名
教育目標 (学力に関するもの)		学び 高め 拓く:「学び」とは「故きを温ね新しきを知る」「高め」とは「自己を高める」「拓く」とは「社会の中で生きてゆく道を拓く」 ◇主体的・対話的で深い学びによる学力向上の推進 ◇規範と相談による生徒指導体制の確立 ◇幸福追求を目的とするキャリア教育の推進 ◇体育・文化活動による健康・安全教育の充実 スクール スローガン“HAPPY”:“Healthy”体も心も健康で、人間関係も健全であることを目指す。“Active”体も頭も元気で活発であることを目指す。“Positive”前向きで、積極的であることを目指す。“Powerful”たくましく、協働できることを目指す。“Be Yourself”自分らしさを活かした人生を送ることを目指す。			
育てたい生徒像 身に付けさせたい資質・能力		1 将来、地域社会で貢献するための基礎となる学力と人間力を鍛える。 2 自ら学び、自ら考え判断し、適切な行動ができる力を育成する。 3 自らの進路実現に向け、主体的に取り組む力を育成する。 4 自ら課題を見いだし、他者と協働して課題を解決する力を育成する。 5 地域社会と連携を図り、体験活動を通して社会の一員として生き抜く力を育成する。			

各教科の取組				
教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
国語	地域社会で貢献するための基礎となる国語についての知識や情報の扱い方を身に付け、場面に応じて適切に使うことができるようにする。	4.0	4.3	生徒の学力的な問題もあり、定着を目指す、指導内容が必要最低限の事項に絞られてしまう。活用する時間が必要だが、その時間をICTを効果的に活用して、学習する場を設ける必要がある。
	自ら考えて課題を見出し、他者と協働して解決するため、自分の考えを論理的にまとめ、それを他者に伝える思考力や表現力、他者の考えを理解し共感できる、想像力及び、状況をまとめ判断する力を育む。	4.0	4.3	グループワーク等を積極的に取り入れ、他者の考えを知るとともに自己の思考を論理的にまとめられる活動や、より多く取り入れ、考える力を鍛えたい。時間数の関係で単発的な内容で終わってしまうため、自分事として捉える活動の時間の確保が必要である。
	様々な人との交流の中で、言葉づかいや言葉の味わいなどの感覚を高め、古典文学を通して言語文化に親しむなどして、自身の国語力を向上させようとする態度を養う。	4.1	4.3	社会の中で自身の言語がどのように評価されるのかを知る機会として、学校外との交流の場を儲ける必要を感じる。
	歴史、文化、政治、経済、国際社会などにおけるさまざまな問題を、多様な角度から理解し、現代社会に生きる人間として主体的に考察し、公正に判断する力を身につけることを目指す。	4.2	4.3	今年度の成果を振り返り、さらなる生徒の学力向上につなげるために、ICTを活用した課題や小テストで学習を促す工夫を模索していく。
地公	歴史、文化、政治、経済などを、世界の各地域における問題・課題を多角的・多面的視点で考察する力を高め、発表やグループ活動で表現する力を育てる。	3.9	4.1	国内外の近現代史に興味関心が湧くような内容を授業で取り上げていくことなど、知識を習得する意味を考えさせることができる機会も設けていきたい。
	史実や地理を主体的に考察し、現代社会における課題を解決しようとする力を育み、他者の歴史・文化などを理解し、尊重する態度を養う。	4.1	4.2	学習意欲の向上につながるよう、授業内容などを再考し、生徒にわかりやすい学習を目標に、教員も研鑽を重ねていくことが求められる。
	数学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身に付いている。	4.1	4.2	ICT機器を活用して、グラフや図形などイメージを持たせて問題に取り組むことを心掛ける。また、それを用いて説明の時間を短縮するなど、演習の時間をできるだけ多く取り、表現・処理能力を高めていきたい。
数学	事象を論理的に考察し表現する力、事象の解決の過程や結果を批判的に考察し判断する力をPCでの発表やグループ活動等他者との協働でできる。	4.0	4.1	今年度は、ICTを活用した授業や積極的にグループ学習等ができた。次年度は教え合いやBYOD活用を中心としたグループ学習をさらに積極的に行うことで課題解決を図りたい。
	数学のよさを認識し、活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、評価・改善したりしようとする態度や創造性が身に付いている。	4.1	4.2	授業において、日常生活の中での数学の有用性を具体例を用いて説明し、数学に興味関心を持たせるなど、限られた場面ではあると思うが、数学的な思考などを生かせるような指導をする。
	物理、化学、生物と人間生活との関連性を理解する為に、日常生活に根ざした身近な物質や現象を具体的に理解できる力を養う。	4.1	4.3	日常生活と物理、化学、生物との関連性を持たせるために実験や観察更に増やし理解を深めていく必要がある。また、実験や観察について身近な現象と関連付けられるようなレポートを作成させる必要がある。
理科	物理、化学、生物の基本的な原理や法則を理解するとともに、日常生活で使用する物質、自然現象を原理や法則と関連づけ科学的に探究する力を養う。	4.0	4.3	物理、化学、生物の原理や法則を日常生活と関連付けられるような題材を中心とした学習活動を増やしていく必要がある。ICTを活用した課題や小テストで学習を促す工夫が必要である。
	観察や実験を通して、身近な物質や事象に興味を持ち、観察、実験のグループ活動を通して他者との協働性を育成し、結果から考察する探究心と思考力を身に	4.2	4.2	実験や観察を通して他者との協働性を持つことができてはいるが、実験後の対話や話し合いを通して考察をし、自分の考え方を発表することが必要である。
	英語によるコミュニケーションにおいて、必要な情報を捉えたり、多様な語句や文を用いて自己発信したりするための知識及び技能を習得している	4.2	4.1	基礎となる語彙や表現が不十分であり、表現の幅が狭いように感じる。例文などを用いて表現の力をつけていくことが重要である。
英語	情報や考えを的確に理解したり、目的や場面に応じて習得したことを活用して表現しコミュニケーションを図ることができる	4.0	3.9	スピーキング活動を取り入れ、やり取りにおけるコミュニケーションのよいトレーニングとなった。会話において、より使える表現や考えを伝える方法を教えていくことが必要である。
	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が身につけている。	4.1	4.1	ALTとの交流を楽しみ、異文化に興味を持ち理解しようとする態度が見られた。より自信をもって表現することができるよう、語彙や表現力を身に付けていく必要性がある。
	共通事項(造形要素とその働き等)の学習を通し、それらの特徴を全体のイメージや作風、様式などで捉え、1学年で身に付けた知識を柔軟に活用することができる。	4.2	4.4	表現したいイメージを、色や形を工夫し、豊かに創造していた。2年次ではより自分の心情を表現することができた。
芸術	創造活動、対話による鑑賞活動、作品のプレゼン(演奏)を通し、芸術的な見方、感じ方を深めると共に、個性豊かに発想することができる。	4.1	4.3	鑑賞活動で、見方、感じ方を深めることが、生徒の豊かなイメージにつながり、豊かな創造力を育むことができたと感じた。
	作品制作、演奏活動に主体的に取り組んでいる。また、生活や社会の中の芸術や芸術文化に対し興味関心を持っている。	4.1	4.3	自分らしい表現で制作できたことに満足している様子が見られた。社会の中の芸術の役割については制作と結びつけながら考えさせたい。
	生活を主体的に営むために必要な衣食住、保育、高齢者などについて理解し、それらに係る技能を身に付けている。	3.9	4.4	食生活分野や衣生活分野で行った実習への取り組みは大変良好で、知識や技能の向上につながっている。今後は、保育・高齢者、住居分野の実習内容の充実を図ってきたい。
家庭	衣食住、保育、高齢者に関する社会的課題を見出し、その解決に向けて実践・評価・改善し、考察したことを論理的に表現することができる。	3.9	4.3	家庭や社会に関する課題の把握、解決策の構想の為に、ICTの効果的な活用を進める必要がある。個人やグループでの発表の機会を増やし、論理的にまとめ表現する能力を身に付けさせていきたい。
	学んだ内容を活かして他者と協働し、自分や家族、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。	3.9	4.3	実習を重ねるうちに協働して作業を進め、より良いものを作ろうとする態度の向上が見られた。今後は、学んだ内容を自分や家族の生活に活かせるような学習課題の工夫に努めていきたい。
	健康の保持増進の仕方、体力の高め方などの基本的な知識を理解し、実践することができるように技能を身に付け活用する。	4.3	4.3	健康の保持増進の仕方や体力の高め方などの知識を深めることができたが、それを生徒自身の生活の中で活用できるようにしていく必要がある。
保体	健康や運動について自他の課題を見つけ、他者と協働して課題の解決に向け思考し判断するとともに他者に的確に伝える力を身に付ける。	4.2	4.3	グループワークやペアワークなど仲間と協働する活動を今年度以上に取り入れ、意見交換する場などを増やしていきたい、生徒の他者に伝える力の向上に努めていきたい。
	主体的に運動に取り組み、何事にも粘り強く取り組む力を身に付け、実践できるようにする。	4.2	4.3	身体を動かすことが好きでない生徒も、主体的に運動に取り組めるように活動内容や指導方法を工夫していきたい。

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
情報				
総探	自らのキャリア形成に必要な知識とそれに関わる情報を整理・分析することができる。また、他者の意見を自らの考えに活かすことができる。	4.3	4.1	外部講師による講義や体験学習の事前・事後の学習を充実させ、自身の学習状況やキャリア形成過程と結びつけて考える時間を十分に確保する。
	自ら課題を見出し、他者と協働しながら課題をより良く解決するために調整したり自己発信したりすることができる。	4.2	4.1	地域や未来の課題を自分自身の進路と関連づけて考えるとともに、課題解決に向けた協働的な学びを充実させる。
	自身の興味・関心をもとに、学びと自らの将来を結び付け、地域や社会と積極的に関わり、自らのキャリア形成に活かすことができる。	4.2	4.1	志望理由書作成において、社会や世界に目を向けて収集した自己に関わる情報を整理し、キャリア形成過程の見通しを持たせる。

「授業アンケート」高評価数値の推移(%:小数点第1位まで) 全学年共通			R6中間	R6度末
先生の声の大きさは適切である。 ①強くそう思う, ②そう思う			98.0%	67.0%
ノート(プリント)等で授業の記録をしっかりと行っている ①強くそう思う, ②そう思う			96.6%	95.5%
指示された活動(PCの活用、グループ活動、実技など)に積極的に参加している ①強くそう思う, ②そう思う			96.0%	93.8%
先生の話す早さは適切である ①強くそう思う, ②そう思う			95.5%	95.2%
課題や提出物を期限までに出している ①強くそう思う, ②そう思う			95.5%	95.5%
先生の評価は公正だと思う ①強くそう思う, ②そう思う			94.4%	90.7%
先生は学習を促す適切な言葉かけを行っている ①強くそう思う, ②そう思う			92.5%	92.3%
授業を通して、知識や技能を身に付け、自分の考えを深めることができている ①強くそう思う, ②そう思う			86.8%	88.4%

保護者アンケート結果(学力に係わるもの)
アンケートの結果を見ると、先生方に対する評価として、生徒が積極的に授業に取り組めるような工夫をしていることに、8割以上の保護者が良いと感じてくれている。その一方で、生徒が学習内容を理解しているかという問いについては、7割程度であった。学校の授業は楽しくわかりやすいと感じているという問いが、7割を超えていたことは良かったと考える。

授業アンケート等を踏まえた総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む)
教科により生徒にとっての得手不得手の差があるためか、評価についても差があるようである。先生方の授業についての項目については、ほとんどの科目が9割を超えて肯定的である。しかし、授業や単元の終わりに目標達成についての自己評価をしているかの問いに対し、実技科目以外の教科については6割から7割であった。授業で学んだことを確認し今後に活かしたり、自らの考えを深めたりする活動の促進が課題であると考えられる。

Active School Kai Project 令和6年度プロジェクト報告書

学校番号	13	学校名	白根高校		
全・定・通	全	学年	3	在籍生徒数	120 名
教育目標 (学力に関するもの)		学び・高め「拓く」学びとは「放きを温め新しきを知る」「高め」では「自己を高める」「拓く」では「社会の中で生きてゆく道を拓く」 ◇主体的・対話的で深い学びによる学力向上の推進 ◇規範と相談による生徒指導体制の確立 ◇幸福追求を目的とするキャリア教育の推進 ◇体育・文化活動による健康・安全教育の充実 スクール スローガン”HAPPY”,”Healthy”体も心も健康で、人間関係も健全であることを目指す。”Active”体も頭も元気で活発であることを目指す。”Positive”前向きで、積極的であることを目指す。”Powerful”たくましく、協働できることを目指す。”Be Yourself”自分らしさを活かした人生を送ることを目指す。			
育てたい生徒像 身に付けさせたい資質・能力		1 将来、地域社会で貢献するための基礎となる学力と人間力を鍛える。 2 自ら学び、自ら考え判断し、適切な行動ができる力を育成する。 3 自らの進路実現に向け、主体的に取り組む力を育成する。 4 自ら課題を見だし、他者と協働して課題を解決する力を育成する。 5 地域社会と連携を図り、体験活動を通して社会の一員として生き抜く力を育成する。			

各教科の取組		身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
国語		地域社会で貢献するための基礎となる国語についての知識や情報の扱い方を身に付け、場面に応じて適切に使うことができるようにする。	4. 1	4. 2	生徒の学力的な問題もあり、定着を目指す、指導内容が必要最低限の事項に絞られてしまう。家庭学習の習慣を確立させる必要がある。
		自ら考えて課題を見出し、他者と協働して解決するため、自分の考えを論理的にまとめ、それを他者に伝える思考力や表現力、他者の考えを理解し共感できる、想像力及び、状況をまとめ判断する力を育む。	4. 1	4. 3	グループワーク等を積極的に取り入れ、他者の考えを知るとともに自己の思考を論理的にまとめられる活動を、より多く取り入れ、考える力を鍛えたい。今年度は、ICTを活用した授業ができた。
		様々な人との交流の中で、言葉づかいや言葉の味わいなどの感覚を高め、古典文学を通して言語文化に親しむなどして、自身の国語力を向上させようとする態度を養う。	3. 7	4. 2	社会の中で自身の言語がどのように評価されるのかを知る機会として、学校外との交流の場を儲ける必要を感じる。
地公		歴史、文化、政治、経済、国際社会などにおけるさまざまな問題を、多様な角度から理解し、現代社会に生きる人間として主体的に考察し、公正に判断する力を身につけることを目指す。	4. 2	4. 3	今年度の成果を振り返り、さらなる生徒の学力向上につなげるために、ICTを活用した課題や小テストで学習を促す工夫を模索していく。
		歴史、文化、政治、経済などを、世界の各地域における問題・課題を多角的・多面的視点で考察する力を高め、発表やグループ活動で表現する力を育てる。	4. 0	4. 1	国内外の近現代史に興味関心が湧くような内容を授業で取り上げていくことなど、知識を習得する意味を考えさせることができる機会も設けていきたい。
		史実や地理を主体的に考察し、現代社会における課題を解決しようとする力を育み、他者の歴史・文化などを理解し、尊重する態度を養う。	4. 2	4. 2	学習意欲の向上につながるよう、授業内容などを再考し、生徒にわかりやすい学習を目標に、教員も研鑽を重ねていくことが求められる。
数学		数学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身に付いている。	4. 1	4. 0	ICT機器を活用して、グラフ図形などイメージを持たせて問題に取り組むよう心掛ける。また、説明の時間を短縮するなど、演習の時間をできるだけ多く取り、表現・処理能力を高めていきたい。
		事象を論理的に考察し表現する力、事象の解決の過程や結果を批判的に考察し判断する力をPCでの発表やグループ活動等他者との協働できる。	4. 0	3. 9	今年度は、ICTを活用した授業や積極的にグループ学習等ができた。次年度は教え合いやBYOD活用を中心としたグループ学習をさらに積極的に行うことで課題解決を図りたい。
		数学のよさを認識し、活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、評価・改善したりしようとする態度や創造性が身に付いている。	3. 9	3. 9	授業において、日常生活の中での数学の有用性を具体例を用いて説明し、数学に興味関心を持たせるなど、限られた場面ではあると思うが、数学的な思考などを生かせるような指導をする。
理科		物理、化学、生物と人間生活との関連性を理解する為に、日常生活に根ざした身近な物質や現象を具体的に理解できる力を養う。	4. 2	3. 8	日常生活と物理、化学、生物との関連性を持たせるために実験や観察更に増やし理解していく必要がある。また、その実験や観察を通して興味関心を学ぶ意欲につなげていきたい。
		物理、化学、生物の基本的な原理や法則を理解するとともに、日常生活で使用する物質、自然事象を原理や法則と関連づけ科学的に探究する力を養う。	4. 1	3. 9	物理、化学、生物の原理や法則を理解し、定着させるために、ICTなどを活用し学習に取り組ませる必要がある。
		観察や実験を通して、身近な物質や事象に興味を持ち、観察、実験のグループ活動を通して他者との協働性を育成し、結果から考察する探究心と思考力を身につ	4. 0	3. 8	実験や観察を通して他者との協働性を持つことができはいるが、実験後の対話や話し合いを通して考察したことを発表し、他者へ理解してもらえるような表現力を身につけさせていく必要がある。
英語		話の展開に注意しながら必要な情報を捉え、多様な語句や文を用いて論理的に自己発信するための知識及び4技能を習得している。	4. 3	4. 4	基礎となる語彙や表現が不十分であり、表現の幅が狭いように感じる。例文などを用いて表現の力をつけていくことが重要である。
		相手の意図を的確に把握したり、目的や場面、状況に応じて習得したことを効果的に活用して表現しコミュニケーションを図ることができる。	4. 2	4. 3	スピーキング活動を取り入れ、やり取りにおけるコミュニケーションのよいトレーニングとなった。会話において、より使える表現や考えを伝える方法を教えていくことが必要である。
		外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、社会的な話題について積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が身につけている。	4. 2	4. 3	ALTとの交流を楽しみ、異文化に興味を持ち理解しようとする態度が見られた。より自信をもって表現することができるよう、語彙や表現力を身に付けていく必要性がある。
芸術		共通事項(造形要素とその働き等)の学習を通し、それらの特徴を全体のイメージや作風、様式などで捉え、自分の個性を生かし、意図に応じて表現している。	4. 1	4. 1	3年次では、目的に応じたて作品を制作し、客観的に色と形について説明できる生徒が増えてきた。
		創造活動、対話による鑑賞活動、作品のプレゼン(演奏)を通し、自己の価値観を働かせて芸術的な見方、感じ方を深めている。	4. 2	4. 1	他者と協働しての制作や、グループワークに積極的に参加していた。見方、感じ方を深め完成度の高い制作のため、生徒同士の対話を充実させたい。
		作品制作、演奏活動に主体的に取り組んでいる。また、生活や社会の中の芸術や芸術文化に対し興味関心を持ち、心豊かに創造している。	4. 2	3. 8	主体的に制作に取り組み、自分らしい表現を追求していた。生活の中の芸術について考える機会を今後も増やしていきたい。
家庭		生活を主体的に営むために必要な衣食住、保育、高齢者などについて理解し、それらに係る技能を身に付けている。	3. 9	3. 8	食物と保育分野の選択科目を履修者は、食物調理検定、保育検定などにも挑戦し、知識と技能の習得を図っている。今後も、実習などを通じて学んだ知識の定着や、技能の向上を図ってきたい。
		衣食住、保育、高齢者に関する社会的課題を見出し、その解決に向けて実践・評価・改善し、考察したことを論理的に表現することができる。	3. 9	3. 8	家庭や社会に関する課題の把握、解決策の構想の為に、ICTの効果的な活用をさらに進めていきたい。発表や討論の機会を増やし、論理的にまとめ表現する能力を身に付けさせていきたい。
		学んだ内容を活かして他者と協働し、自分や家族、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。	3. 9	4. 4	実習やグループワークなど実践的な学習に取り組むことで、課題解決能力の向上につながってきていると感じる。学んだ内容を実生活に活かせるような学習課題の工夫に努めていきたい。
保体		健康の保持増進の仕方、体力の高め方などの基本的な知識を理解し、実生活の中で実践することができるように技能を身に付け活用する。	4. 4	4. 4	健康の保持増進の仕方や体力の高め方などの知識を深めることができたが、身につけた知識を生徒自身の生活の中で活用できるようにしていく必要がある。
		健康や運動について自他の課題を見つけ、他者と協働して課題の解決に向け思考し判断するとともに的確に他者に伝える力を身に付け表現できる。	4. 4	4. 3	グループワークやペアワークなど仲間と協働する活動を今年度以上に取り入れ、意見交換する場などを増やしていき、生徒の他者に伝える力の向上に努めていきたい。
		主体的に運動に取り組む、何事にも粘り強く取り組む力を身に付け、実生活の中で実践できるようにする。	4. 5	4. 4	身体を動かすことが好きでない生徒も、主体的に運動に取り組めるように活動内容や指導方法を工夫していきたい。卒業後も継続して主体的にスポーツに取り組むことができる姿勢を身に付けさせたい。

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
情報				
総探	自らのキャリア形成に必要な知識や情報を整理・分析した結果をまとめ、表現することができる。また、自らの意見を効果的に他者に伝えることができる。	4. 3	4. 4	外部講師による講義や体験学習の事前・事後の学習を充実させ、自らの進路と結びつけて考える時間を十分に確保する。
	自ら課題を見出し、他者と協働しながら課題をより良く解決するために多角的な視点から調整をしたり、効果的な自己発信したりすることができる。	4. 3	4. 4	自分自身の進路と社会の課題とを関連づけて考えるとともに、課題解決に向けた協働的な学びに主体的に取り組ませる。
	自己の在り方・生き方を考えながら、社会や世界と積極的に関わり、人生を豊かにするために生涯学び続ける姿勢が身についている。	4. 3	4. 4	キャリアパスポートや志望理由書作成において、社会や世界に目を向けて収集した自己に関わる情報やキャリア形成過程を整理し、高校生活の振り返りを充実させる。

「授業アンケート」高評価数値の推移(%:小数点第1位まで) 全学年共通			R6中間	R6度末
先生の声の大きさは適切である。 ①強くそう思う, ②そう思う			98.0%	67.0%
ノート(プリント)等で授業の記録をしっかりと行っている ①強くそう思う, ②そう思う			96.6%	95.5%
指示された活動(PCの活用、グループ活動、実技など)に積極的に参加している ①強くそう思う, ②そう思う			96.0%	93.8%
先生の話す早さは適切である ①強くそう思う, ②そう思う			95.5%	95.2%
課題や提出物を期限までに出している ①強くそう思う, ②そう思う			95.5%	95.5%
先生の評価は公正だと思う ①強くそう思う, ②そう思う			94.4%	90.7%
先生は学習を促す適切な言葉かけを行っている ①強くそう思う, ②そう思う			92.5%	92.3%
授業を通して、知識や技能を身に付け、自分の考えを深めることができている ①強くそう思う, ②そう思う			86.8%	88.4%

保護者アンケート結果(学力に係わるもの)
アンケートの結果より、先生方に対する評価として、生徒が意欲的に授業に取り組めるような工夫をしているという問いや、学校の授業が楽しくわかりやすいと感じているの問いに、6割以上の保護者が良いと感じてくれている。その一方で、生徒が授業などの学習内容をほど理解しているかという問いについては、3割弱の保護者から否定的な回答があった。学校が楽しいと言っているという問いが8割を超えていたことは良かったと考える。

授業アンケート等を踏まえた総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む)
先生方の授業についての項目については、ほとんどの科目が9割を超えて肯定的である。しかし、教科により生徒にとっての得手不得手の差があるためか、達成度についても若干の差があるようである。年度末評価では、3、8以上のまずまずの評価をもらえたが、授業アンケートにおける先生の声の大きさは適当であるという問いに対し、7割弱の結果であったことは、授業を受ける生徒にとって、授業理解や自らの考えを深めたりする活動の促進に影響があると思われる。早急な対応が必要だと考える。